

ドクター板東の メディカルリサーチ Vol.123

～運命を いかにデザイン していくか～

<http://pianomed-mr.jp/>

JR徳島駅から徒歩数分で「あわぎんホール」に。2階の展示ホールで「書道展」が開催された。入口から足を踏み入れると、正面から力強い文字が眼に飛び込んできた。

「運命をデザインする、日野原重明 百寿」とある(図1)。我々が尊敬する聖ロカ病院の日野原先生が主宰される「新老人の会」は、全国に支部があり1万数千人の会員がいる。

今月は書道展や日野原先生の講演会などの話題に触れてみたい。

次代の書を考える

このたび「新老人の会」徳島支部による「次代の書を考える書道展」が3日間開催された(図2)。

ちょうど平成28年になったばかりで、新年にあさわしい企画といえよう。斬新なアイデアでバラエティに富む作品を出品したのは、New Elder(新老人)の方々であった。

その経過を説明しよう。「新老人の会」では文化講

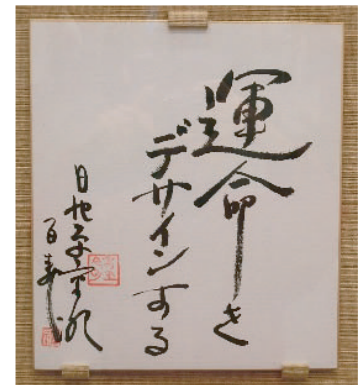


図1

座を開催している。日野原先生の来徳に合わせ、書道展の作品を会員相互に教え合って制作した。講師は加島俊彦氏や木本美代子氏などが担当。各自が書や画を自由に色紙に描く。名称は書道だが、実際には幅広いジャンルを含む。



図2



図3

近年は感性を大切にした作品群が多くなり、作品の中から、天空、百福、心音、山葡萄・夏草を紹介する(図3-7)。

私は、色紙に「心音を永遠に抱きて健やかに」と詠み、イラストも描いてみた。今まで「心根」という言葉



図4

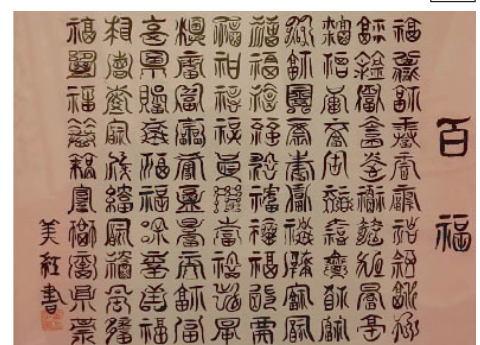


図5

は広く知られているが、私に関わる日本補完代替医療学会で、音楽療法の展開に「心音(こころね)」が注目されている。



図6

日野原先生の講演

日野原重明先生の講演会は、徳島で4回目となる。

98歳、100歳、102歳、今回は104歳と、いつもお元気で意義深いお話を伺うことができた(図8)。演題は「いのちを守り、平和を築く」。昨年は戦後70年、我々は全国の仲間と、命や平和の尊さを伝えていく活動を行った。

次の講演は、著名な音楽評論家の湯川れい子先生による「音楽から見えてくる



図7

ことゝもつと健康に幸せに」であった(図9)。

先日、残念なことに、世界的ロックスターのデヴィッド・ボウイさんがお亡くなりになり全世界へ発信。我が国のテレビ報道でも、直ちに湯川先生が氏の業績



図9



図8

に触れておられた。

日野原先生と湯川先生は日本音楽療法学会の重鎮である。子守歌からクラシック、ジャズ、ロックまで、すべての音楽は私たちの健康や人生、幸福に影響し、「音楽力」が心に直接働きかける(図10)。

音楽療法は音楽領域ではなく医学・医療の分野に含まれる。患者さんが薬を飲むと、何がどう良くなったのかと考える。同様に、音楽をどう適用させると、「音楽」としてどう効果的だったのか、検証していくことが重要だ。

音楽のプレゼント

講演会の前半はお二人の先生のご講演で、後半は音楽を「音の薬」として考え、皆様へのプレゼントの時間を設けた。



図10

いろんなジャンルから有名な曲を、小学生から成人までがピアノの連弾で披露した。その中には、クラシックの連弾曲に加えて、ビートルズの Let It Be など含まれた。

私は佐藤由美子氏とピアノ作曲のリベロ・タンゴを連弾。高音域担当の氏は超絶技巧で華やかに演奏。低音域の私は譜面通り、両手に加えて左足で床を強く踏みならしてリズムを刻んだ(図11)。

また、日野原先生が作詞した2015年NHK合唱コンクール課題曲「地球



図11

をつつむ歌声」を2歳の幼児まで共に歌った。歌詞を口ずさむと、日野原イズムが子供の心に浸透していく。人と優しく交流できる関係性を築き、世界平和に繋がることに。漢字の音と言の由来は同根で、音楽力が人を育て、また運命も変えていくことであらう。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)



図12